

関東腹腔鏡下胃切除研究会（編著）

腹腔鏡下胃切除術

一目でわかる術野展開とテクニック（第2版）

笹子三津留

兵庫医大教授・上部消化管外科

腹腔鏡下の胃癌手術は早期胃癌に対する RCT が実施されている一方で、エビデンスもないまま、まさに“流行り”となっている。その反面、見よう見まねでやった手術で死の危機に瀕する合併症を生じたケースや早期に再発する症例など、担当医への不信から胃癌を専門として長年やってきた私のところにセカンドオピニオンを求めてやって来る患者・家族に時々遭遇するようになった。誰にとっても「初めての術式」の経験はあるわけで、どうすれば患者さんに迷惑をかけることなく新しい技量を身につけていけるかを考えることは今後ますます重要な課題といえる。

本書は、どうすれば開腹胃癌手術に一定水準以上の技量と経験を持つ人が鏡視下の胃切除を安全かつ有効

に実施できるようになるか、を念頭に書かれた書物と筆者は考えたい。胃癌手術の初心者は本書よりも、むしろ同じ医学書院の『イラストレイテッド外科手術』（第3版）を読むべきである。本書は開腹に限っていた胃癌手術を鏡視下手術に広げたい人向けである。いや、それ以上に自分のやり方では何とかそれなりの鏡視下手術を実施できる実力をつけられた先生にぜひ読んでいただきたい。

本書は同じタイトルの初版から4年を経て出版されている。この間に著者の先生方が手術においてどれだけの工夫をして、さまざまな体験をして新たな境地に達しているかを窺い知ることができる。キーワードは多様性である。胃癌に対する胃切除は全体の流れとともに郭清の場面場面の手技・技量・コツといったポ

イントが一つに繋がって初めて達成される。本書は複数の筆者が執筆を担当することの利点を最大限に生かし、さまざまな工夫を読むことができ、自分にあったやり方や考え方を取り入れることができる内容となっている。引き出しを多く持つ外科医はあらゆる局面に強くなれる。手術の各ポイントでは、初版に比べて鮮明度が向上した写真を4枚並べて各手技の連続的な流れを示し読者の理解を助けるなど、随所に改善された本書は専門医試験を受けるレベルに達しようとする外科医にも必須の書と思われる。

●B5/頁 200/2010 年/定価 9,450 円
(本体 9,000 円+税 5%)

[ISBN978-4-260-00998-0]

医学書院 刊